

## 第3学年東組 国語科学習指導案

学習指導者 森山 敬三

### 単元 「ことがらの中心を考えながら読もう - 『自然のかくし絵』 - 」

#### 1 本単元のねらい

国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
「自然のかくし絵」について、段落ごとに書かれている内容の中心を読んだり、そのことについて友達と交流したりしようとする。	文と文、段落と段落の関係に気を付けながら、段落やまとまりにおける中心文、中心段落を捉え、短くまとめることができる。	当該学年配当漢字を読み書きしたり、教材文中のことばの意味や指示語、接続語等の役割を理解したりする。

#### 2 単元について

##### (1) 教材開発とその組織について

中学年における説明的文章の読みで身に付けさせたい能力に、「中心を抜き出す力」がある。段落の中心（以下、中心文）については、意味内容や接続語等を基に文相互の関係を考えながら見付けさせることが重要である。しかし、文相互の関係を付加、理由、例示、転換、解説、順接、逆接、補足・・・と個別に押さえていくのでは、それらの関係ごとに中心文を見付ける思考様式（「～なときは、・・・が中心文である。」）を記憶しなければならなくなるため、複雑かつ、その定着も不十分とならざるを得ない。

そこで、**文相互を4種類の関係から俯瞰し、中心文を見付ける読みの授業**を提案する。言い換えると、前段落で示したような文相互の個別の関係を4つの関係に集約し、そこから段落の中心文を見付けていく読みの授業である。4つの関係とは「同質 ある命題に対して、その具体例、エピソード、引用、比喩等によって言い換えている関係」「対立 『Aである。しかし、Bである。』といった対立関係」「因果 『Aである。だから、Bである。』といった因果関係」「独立 ある命題に対して、付加、転換、補足等、独立した関係」である。

このように、文相互を4種類の関係から俯瞰することで中心文も見付けやすくなり、そこで学ぶ思考様式も、個別の関係ごとに記憶しなければならなかった負担から解放される。

##### (2) 脳科学研究の知見との関連

全体像を把握しておくこと、個々の部分も分かりやすくなる。 山鳥 重・池谷裕二 他

「この段落が何を言おうとしているのか分からない」というのは、段落内に複数存在する文の重み付けができないからである。そのような子どもは、どの文も大切であると考え、結果、全ての文からキーワードを抽出してまとめようとする。抽出したキーワードは、もともとが異なる命題文に存在していたのだから、それらを無理に結び付けてまとめようすると、頭の中が混乱して分からなくなるのである。段落の中心は、「キーワード抽出型」よりも、段落内で相対的に重要な文を見付ける「中心文抽出型」の方が、捉えやすいのである。

とは言っても、文相互の個別の関係ごとに中心文を見付ける思考様式を記憶しておくのは、(1)でも述べたように大変である。しかも、使われる接続語の種類も様々である。

これに対して、文相互の関係の全体像を把握しておけば、中心文の見当が付けやすくなる。例えば、ある文に続く文が例、経験、引用、解説、比喩のいずれであっても、「同じことを別の言葉で言い換えているんだな。」という大まかな関係さえ把握していれば、中心文を同定することはそれほど難しいことではない。

すなわち、同質、因果、対立、独立という文相互の関係の全体像を把握していれば、文相互の個別の関係も分かりやすくなるのである。

3 単元計画（総時数 10時間）

内容の大体を捉える

（2時間）

「自然のかくし絵」を通読し，言葉の意味や指示語等の役割を理解しながら内容の大体を捉え，学習の見通しをもつ。

かくし絵って何だろう。虫がかくれてどこにいるか分からないようになることかな。保護色と同じことかな。

段落を知ったよ。全部で10段落だ。それぞれの段落ごとにどんなことが書かれているか短くまとめよう。

段落ごとに要点を捉える

（5時間）

～ 段落ごとに中心文を見付け，短くまとめる。

【2日目5/5】

②段落は，文が3つもあってなかなか短くまとめられないよ。どうすればいいのかな。

文と文が「同じ関係」か，「反対の関係」か，「わけの関係」か，「別の関係」かを考えて，中心文を見付けるといいんだな。②段落の中心文は3文目だ。

中心文を短くまとめるには，2年生の時に学習した主語と述語に目を付けると簡単だ。

文相互の関係を考えながら，段落に書かれている内容を短くまとめることができる。

まとめりに要点を捉える

（3時間）

～ まとめりに中心段落を見付ける。

まとめりにまとめる時も，中心文を見付ける学習と同じようにして，中心段落を見付けたいんだな。

段落相互の関係を考えながら，まとめりに書かれている内容を短くまとめることができる。

文章全体の構成を捉える。

段落カードを使って，文章全体を図で表してみよう。大きく3つに分かれるね（「はじめ」「なか」「おわり」）。

脳科学研究の知見との関連

文相互を4種類の関係から俯瞰し，中心文を見付ける

1段落1文の場合は，それが中心文となる。1段落中に複数の文が存在する場合に，文相互が「同じ関係（同質）」か，「反対の関係（対立）」か，「わけの関係（因果）」か，「別の関係（独立）」かを吟味させていく。この関係は，段落相互の関係にも当てはまる。

それぞれの関係において，中心は以下ようになる。

（ が中心文）

<同質> ~~~~~  
主張や事実（中心）  
|| 同質  
例，体験，引用など

<対立> ~~~~~  
主張や事実  
対立  
反対の主張（中心）  
事実の場合は除く

<因果> ~~~~~  
理由や原因  
因果  
主張や事実（中心）

<独立> ~~~~~  
主張や事実（中心）  
独立  
主張や事実（中心）

（ ~ で実施）

4 本時（2日目）の学習指導 【研究授業】

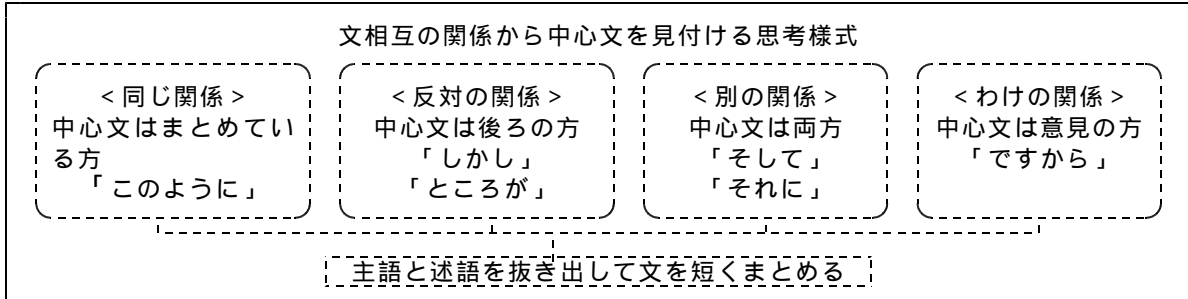
(1) 目標

教材文「自然のかくし絵」の9, 10段落を読み，文相互の関係を考える活動を通して，それぞれの段落における中心文を見付け，短くまとめることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識
<p>1 9段落の中心文について，お互いの考えを交流する。</p> <p>2 9段落に書かれている内容を短くまとめる。</p> <p>3 10段落に書かれている内容を短くまとめる。</p> <p>4 次時の学習への見通しをもつ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">             段落ごとに書かれていることを短くまとめよう         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">             9段落は2つの文でできているよ。         </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【 文目が中心文だ 】                      文目の最後に「からです」があるよ。これはわけの関係だから，文目が中心文だよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【 文目が中心文だ 】                      鳥やトカゲのことを書いているんだから，文目が中心文だよ。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>文目のはじめに「ところが」があるよ。反対の関係だから，文目が中心文だよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>でも，「ところが」は8段落とのつながりだから，文と文の関係を表しているんじゃないよ。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>中心文は 文目だ。短くまとめよう。                      「こん虫が動いたときなどには，鳥やトカゲに食べられてしまうことがある。」</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>10段落は1文だけだよ。短くまとめよう。                      「ほご色は，こん虫が生きつづけるのにずいぶん役立っている。」</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ところが」は前の段落とのつながりだったね。ということは，段落にも中心段落があるのかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>次の時間は，段落と段落の関係を考えていこう。</p> </div>

《前時までの子どもの心像モデル》



脳科学の知見に基づいた支援

《文相互を4種類の関係から俯瞰し、中心文を見付けさせる》

本教材文「自然のかくし絵」の9段落の文章は、次の通りである。

9 ところが、こん虫が自分の体の色と同じような色をした所にいたとしても、動いたときなどには、鳥やトカゲに食べられてしまうことがあります。鳥やトカゲなどは、ちょっとした動作を見のがさない、するどい目を持っているからです。

文目と 文目は因果関係にあり、中心文は 文目である。子どもは、その理由として次のようなものを挙げてくるであろう。

ア： 文目の終わりに「からです。」があって、わけの関係になっているから。

イ： 文目の初めに「ところが」があって、反対の関係になっているから。

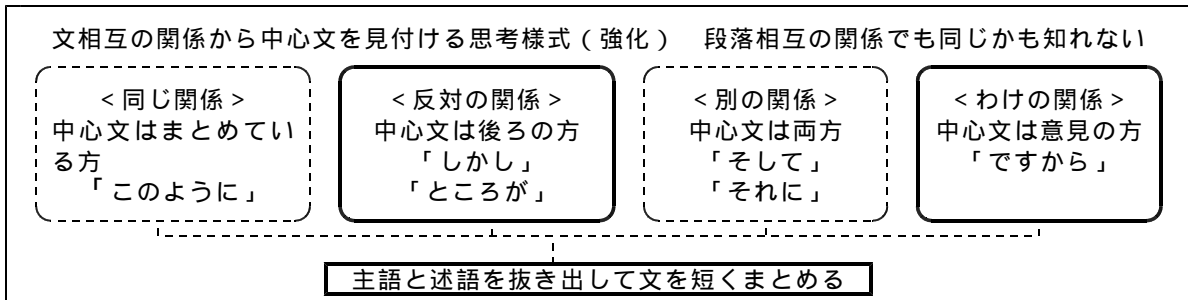
(「野球の練習を一生懸命した。ところが、練習の成果が出せなかった。」のような対立関係の場合、中心文は接続詞のある 文目になる。)ここでは、文相互の関係が因果関係アでもあり、対立関係イでもあることの矛盾を子どもたちに投げかけ、文相互の関係を吟味する力の定着を図りたい。

また、10段落のように1文が長い場合も、文全体を俯瞰する能力が必要になってくる。

10 ほご色は、どんな場合でも役立つとはかぎりませんが、てきにかこまれながらこん虫が生きつづけるのに、ずいぶん役立っているのです。

このような場合は、文が成立する最低条件である主語、述語、補語を抜き出し、短くまとめることで文意がつかみやすくなることを実感させたい。

《期待する子どもの心像モデル》



【評価】方法：ノート

B：文相互の関係を正しく捉え、段落の中心文を見付けている。

A：Bに加え、主語、述語を正しく捉え、段落の要点を短くまとめて書いている。

B例

9段落「自分の体の色と同じような所にいたとしても、鳥やトカゲに食べられてしまうことがある。」

A例

9段落「こん虫がうごいたときなどには、鳥やトカゲに食べられてしまうことがある。」